大月隆司（おおつきたかし）議員

包括ケアシステムについて問う

議員　介護予防と健康づくりの現状と課題についてたずねる。

市長　要介護状態となることを予防する目的として、高齢者が参加しやすい活動の場の拡大と、通いの場の参加者に対して、低栄養や運動機能、口腔機能の低下といった虚弱な状態にある高齢者を早期に発見し、適切な指導を実施している。また、高血圧、糖尿病などの生活習慣病の発症予防、重症化予防の取組を進めている。今後は、介護認定を受けているにもかかわらず、介護サービスを利用されていない高齢者や、75歳以上の高齢者で今までに医療受診や介護認定がなく、包括支援センターや愛育委員の訪問歴がない方を訪問し、地域の活動の場への参加を進め、介護予防の取組を強化していく。

自衛隊の活用について問う

議員　危機管理のプロフェッショナルとして、退職自衛官や地域防災マネージャーを防災監として採用できないか。

市長　自衛隊岡山地方協力本部と退職自衛官の採用について協議を行っている。防災監は役職等が関わってくるため、まずは退職自衛官を地域防災マネージャーとして採用ができないか検討する。

議員　水防訓練、防災訓練に消防組合、消防団との連携による訓練等、自衛隊のノウハウを活用した実践的な取組ができないか。

市長　防災関係機関などと災害現場を想定した連携訓練も必要であると感じている。取り入れていきたい。

森岡聰子（もりおかさとこ）議員

ウィズコロナ時代の本市の施策について問う

議員　ウィズコロナ時代における、①コミュニティ活動の地域の実情について②子供への影響について③デジタルデバイドの解消を図る取組について④認知症への対応について

市長　①地域のコミュニティ活動は自粛を求められ、活動数が減少している。

教育長　②マスク着用により、相手の感情を推し測ることが難しくなっている。

市長　③各地区の公民館や公共施設を会場としたシニアスマホ教室の実施を検討している。

健康福祉部長　④施設、事業所の感染予防の支援に取り組む。

全国手話言語市区長会「手話劇祭」について

議員　手話劇祭における①目的と概要について②一般市民の参加について③コロナ対策について

市長　①手話の普及に加えて、手話言語から生まれる文化やその魅力に触れてもらうことを目的に開催する。手話狂言や講演会、手話パフォーマンス等を行う。②市民参加型の手話コンテストを計画している。多くの方が気軽に手話を学べる機会にしたい。③マスクの着用や検温の実施等で健康管理の徹底を図る。

議員　この手話劇を今後の施策にどのように反映するのか。

健康福祉部長　障がいを持つ方が健常者と一緒に垣根のない日常が送れるような施策につなげたい。